

全酪連会報 8

2024 AUG No.707

若手後継者の本音／佐々木 隆宏さん、智也さん

第75年度(令和6年度)通常総会開催される 概要

第51回全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農経営発表の部

父の日に牛乳を贈ろう! 後編

日本酪農見て歩紀／

ベルちゃんたちのおうち株式会社(山口県下関市菊川町)

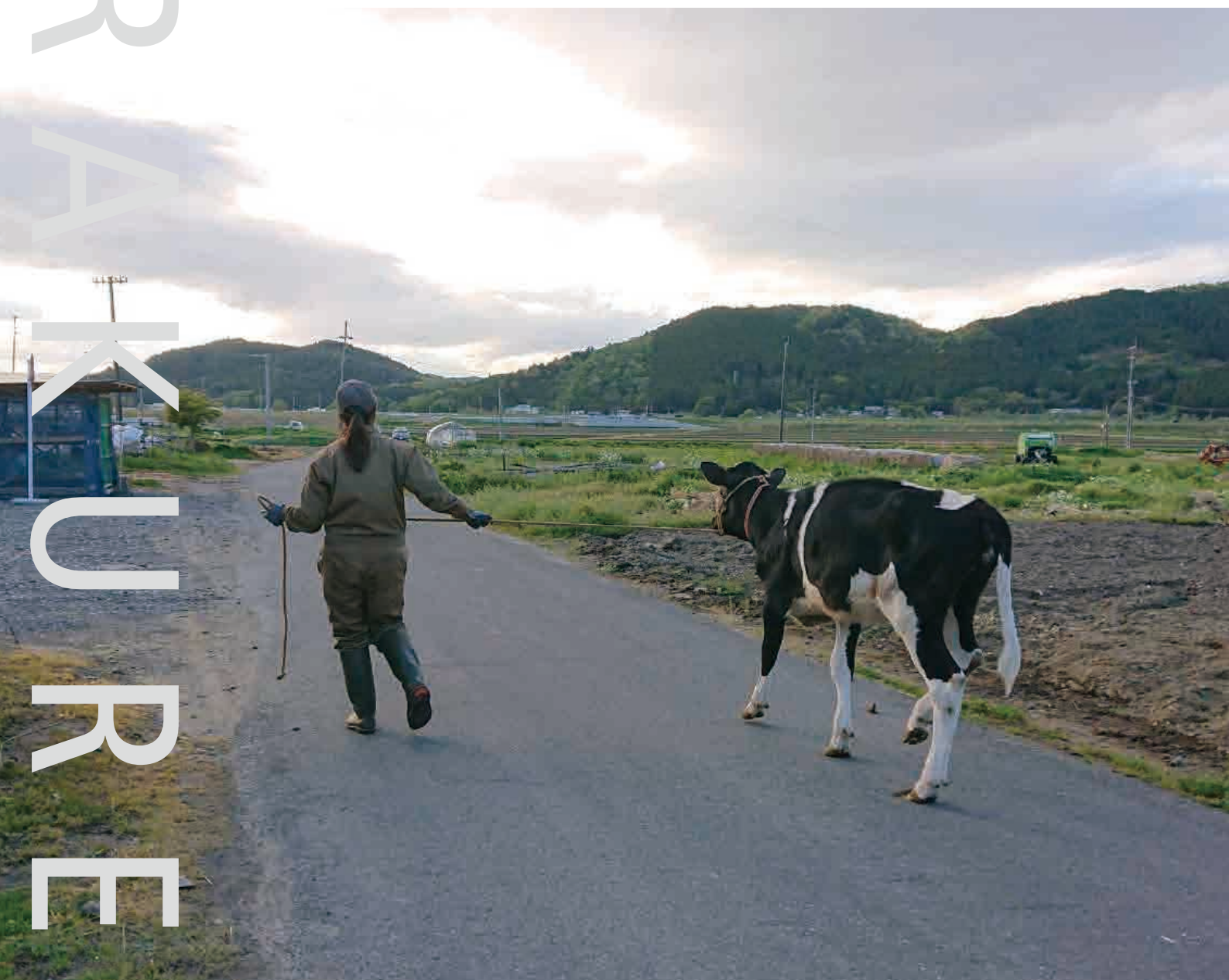
酪農トピックス／全国農協乳業協会

「令和6年度クレーン対応研修」の開催について(酪農部)ほか

第14回酪農いきいきフォトコンテスト入賞作品紹介

酪政連活動報告

人事異動



LINE公式
アカウント
ができました!
登録をお願いします!



酪農青年女性会議

@642bpcwk



全国酪農業協同組合連合会

この度ご紹介します佐々木牧場は岩手県盛岡市の東部に位置する築川地域にあります。盛岡市には、歴史と風土に培われた行事が多くありますが、夏の風物詩といえは8月に行われる盛岡さんさ踊りです。藩政時代から受け継がれた行事で、迫力満点の太鼓と軽やかな笛の音に合わせ舞い踊る夏のメインイベントとなっています。

佐々木牧場は現在の牧場主・総隆さんのお祖父さんが昭和26年に乳牛を導入したのが始まりです。対尻式牛舎は昭和47年に建てられ、平成元年に現在の38頭牛舎に改築・増頭しました。他にパドック付き乾乳牛舎、堆肥舎があります。牧草地は借地も併せて28町歩ほど保有し、粗飼料はほぼ自給で賄えているそうです。佐々木牧場が所属する岩手中央酪農業協同組合は生乳出荷戸数90戸、生乳生産量は19,685t（令和5年度）となっております。

今回お話を聞きしたのは総隆さんのご子息である隆宏さん・智也さんご兄弟です。



▲ 佐々木智也さん(左)と佐々木隆宏さん(右)

就農までの経緯

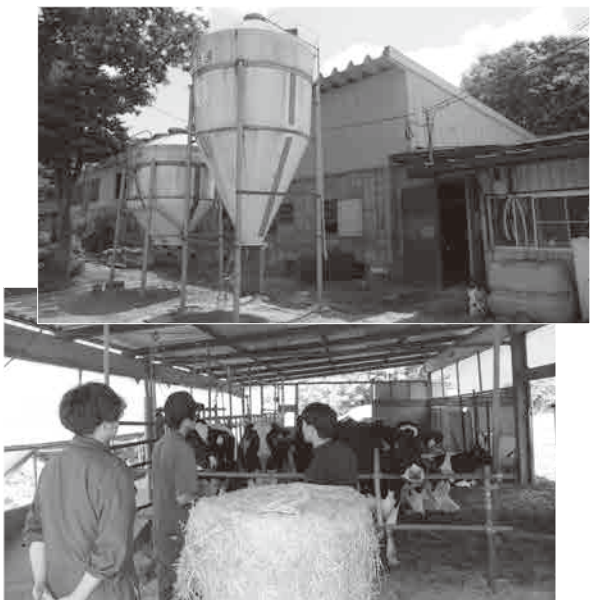
隆宏さんは酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、酪農学園大学に進学し、卒業後は佐々木牧場で就農されました。中学生で進路を考えたときにはすでに酪農に進むことを意識しており、「小さな時から牛舎が遊び場で、牛と遊んだり、トラクターに乗ったり。酪農が生活リズムの一部だったので、自然に酪農の道を選んだ」と当時を振り返って仰っていました。県内の農業高校への進学も考えましたが、お父様の助言もあつて酪農が盛んな北海道での進学を決めました。

智也さんも「酪農を専門に学べる学校に」との希望から隆宏さんと同じとわの森三愛高等学校に進学し、卒業後は北海道岩見沢市の経産牛約80頭規模の牧場に就職し2年半働きました。佐々木牧場と同じく牛群改良に力を入れている牧場だったので、牛づくり、管理方法などを中心に熱心に学んだそうです。退職後の昨年11月に岩手県に戻り、今は所属組合の酪農ヘルパーとして働きながら牧場作業を手伝っています。

酪農を取り巻く状況が悪化したのはお2人が20歳前後のころでしたが、他の道に進むことを考えたことがあるか伺いますと、お2人とも全くなかったそうです。隆宏さんは小さいころからお父様の姿を見ていたからか、自分がサラリーマンになったり他の仕事をしたりしているのは想

今回は、岩手県盛岡市佐々木牧場の後継者 佐々木 隆宏さん、智也さんにお話を伺いました。

▼ 搾乳牛舎



▲ 乾乳牛舎

像できず、酪農以外の道は考えられなかったそうです。智也さんは牧場の従業員だったときに社長が苦労されている様子を見ていましたが、「第一に牛が好きだから、簡単に諦められるものではない。好きなことを諦めてまで仕事をしたくなかった」と熱い心の内を話してくださいました。

就農してみてもいい

隆宏さんは就農してから理想と現実のギャップを感じたこともあったそうです。「学生時代は同じ酪農家の息子と話しながら規模拡大やロボット導入など将来のことを思い描いていたが、実際就農すると土地や資金、自給飼料の確保という面で容易ではない、それよりも先にや



▲ 共進会にも熱心に取り組んでいます(リードマンは智也さん)



▲ 育成牛は搾乳牛舎の隣接スペースに



▲ ミキシングフィーダー

若手後継者の 本音

Vol.70

〔経営概況〕

所 属 岩手中央酪農協同組合(小西善之代表理事組合長)
家族構成 佐々木隆宏さん(長男・24歳)、智也さん(次男・22歳)、総隆さん(父)、祖母
飼養頭数 経産牛36頭、育成牛15頭(一部預託)

“長命連産”親子兄弟で 目指す酪農経営

将来は…

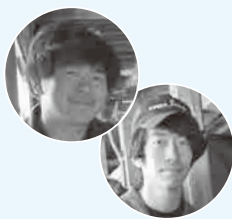
酪農情勢が良くなれば規模拡大も視野に入れています、いつかは兄弟で共同経営するので

るべきことがたくさんあると感じた」
智也さんは「教科書で学んだことは基礎中の基礎で、実際にやってみないと分からないことは多いし、正解は一つではなくて牧場に合ったやり方があると思った」と現在のヘルパーのご経験も通じて感じたそうです。
親子や兄弟で意見が対立することはありますが、と伺いますと「3人とも考えていることが大体同じなので、意見の対立はあまりない」とお2人とも口をそろえて仰っていました。親子共通して長命連産、飼料効率向上、体型の良い牛を作ることを一番に考えているので、お父様のやり方を継承していきたいそうです。

はなく、それぞれの牧場を持って経営していくことも検討しているそうです。牛舎から少し離れている牧草地近くにもう一つの牛舎を考えていますが資金や土地確保のハードルも高いことから、すぐにとは考えず、まずは今の規模で頑張っていきたいと仰っていました。
依然厳しい酪農情勢ではありますが、「飼料や資材は高くなっているけど、どれだけ自給飼料で栄養価を高められるか、個体成績を伸ばせるか、などを工夫して頑張っていきたい」と現時点の問題と将来に向け、今できることについてのお話をいただきました。親子共通して目標としている「疾病を減らして長命連産な牛づくり」を目指して、佐々木牧場のさらなる発展を祈念しております。

全国の若手後継者の皆さんへの一言！

酪農は大変とよく言われる職業ではありますが、その分やりがいも感じる職業だと思います。牛が好きという気持ちを大切に、一緒に頑張りましょう！



通常総会開催される



本会は、7月25日(木)13時より、明治記念館（東京都港区元赤坂）において、第75年度通常総会を開催し、令和5年度の事業実績、剰余金処分案、第十三次中期事業計画案、令和6年度の事業計画案などの承認を得るとともに、役員の改選を諮りました。

令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画

(単位:百万円)

科 目	令和5年度実績 ①	令和6年度計画 ②	②/①対比
酪農事業(取扱金額)	36,518	34,652	95%
	(8,163)	(6,859)	84%
購買事業(取扱金額)	96,653	94,190	97%
総取扱金額	133,171	128,842	97%
	(104,816)	(101,049)	96%
事業総利益	10,178	10,970	108%
販売費用	7,941	7,989	101%
事業管理費	3,069	3,203	104%
事業利益	-832	-222	-
事業外収益	1,601	1,490	93%
事業外費用	983	1,056	107%
経常利益	-214	212	-
特別利益	4	0	0%
特別損失	236	70	30%
税引前当期利益	-446	142	-

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

※()の取扱金額は、「生乳」の全国再委託販売手数料等の金額、及び当該金額を取扱金額とした合計値。

収支計画の売上高及び損益計算書の事業収益は、この金額で表記する。

本総会には来賓として、農林水産省畜産局・松本平局長、農林中央金庫・尾崎太郎常務執行役員をはじめとして、一般社団法人全国酪農協会、日本酪農政治連盟等、関係団体からもご臨席をいただきました。

総会は、高来直人氏（石川県酪農業協同組合 代表理事組合長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第6号議案「役員の選任の

件」において、役員改選を行い、新たに役員を選任しました。なお、総会後の理事会において、隈部洋氏（熊本県酪農業協同組合連合会）が代表理事会長に再任されました。

また、総会終了後の第6回監事会において、紺野宏氏（福島県酪農業協同組合・代表理事組合長）が代表監事に選任されました。

（新役員については、次頁のとおり）

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

新役員体制決定

～代表理事会長に隈部理事が再任、副会長に小前理事および伊藤理事が再任
代表監事に紺野監事が選任～

本通常総会において役員改選が行われ、下記のとおりの新役員体制となりました。



●代表理事会長
隈部 洋
熊本県酪農業協同組合連合会
常勤



●副会長理事
小前 孝夫
大山乳業農業協同組合
非常勤



●副会長理事
伊藤 一成
みやぎの酪農業協同組合
非常勤



●専務理事
北池 隆
実務精通役員
常勤



●常務理事
西村 裕之
実務精通役員
常勤



●常務理事
佐藤 弘
実務精通役員
常勤／新任



●常務理事
工藤 文彦
実務精通役員
常勤／新任



●理 事
朝倉 実行
茨城県酪農業協同組合連合会
非常勤



●理 事
臼井 勉
酪農とちぎ農業協同組合
非常勤



●理 事
佐野 政利
本別町農業協同組合
非常勤



●理 事
鈴木 康弘
愛知県酪農業協同組合
非常勤



●理 事
高橋 秀行
千葉県酪農業協同組合連合会
非常勤



●理 事
中村 隆馬
長崎県酪農業協同組合連合会
非常勤



●理 事
檜尾 康知
おかやま酪農業協同組合
非常勤／新任



●理 事
三瀬 寿登
愛媛県酪農業協同組合連合会
非常勤



●理 事
望月 英彦
中春別農業協同組合
非常勤



●理 事
山口 長一
山形県酪農業協同組合
非常勤



●代表監事
紺野 宏
福島県酪農業協同組合
非常勤



●常任監事
関和 次男
常勤



●監 事
有村 洋平
鹿児島県酪農業協同組合
非常勤



●監 事
小林 幹男
赤城酪農業協同組合連合会
非常勤／新任



第51回

全国酪農青年女性酪農 発表大会

酪農経営発表の部

去る、7月18日(木)～19日(金)の両日、名古屋市「名古屋東急ホテル」において全国の酪農生産者および関係者約450人が参集し、「第51回全国酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。

酪農経営発表の部

筒井省悟さん(西日本会議)が農林水産大臣賞を受賞!!

青沼光さん(中部会議)が審査委員長特別賞を受賞!!

酪農意見体験の部

牧之瀬佳貴さん(北海道会議)が最優秀賞を受賞!!

茂木梨恵さん(東北会議)が審査委員長特別賞を受賞!!



▲ 中村委員長

先ず開会式は、主催者のあいさつで始まりました。

全国酪農青年女性会議の中村俊介

委員長は、来賓への感謝を述べた後、『ここ数年、コロナから始まり国際紛争や為替変動などで非常に厳しい状況が続いているが、国、都道府県、酪農関係団体等の支援があり何とかやってきてはいるが、いまだ回復しきってはいないと考える。発表者には、今の酪農の現状を素直に発表いただき、参加者も彼らの内容を持ち帰り、それぞれの経営に役立てていただきたい。』と述べました。

引き続き、全酪連の隈部洋会長は、『昨年は、この大会の魅力や意義を再認識するとともに酪青女活動



▲ 隈部会長

を活気のあるものとするために札幌で酪友フォーラムを開催した。ここ数年、経営環境が全く見通せない状

況であったが、酪農家の努力と、行政、関係団体等の支援により、少しずつではあるが将来の経営を考えることができた。今日の発表が、酪農家皆様の糧になると信じている。この大会でモチベーションをあげて、多くの酪友を作り楽しんでほしい。』と述べました。



▲ 坂本哲志農林水産大臣

来賓の坂本哲志農林水産大臣は『平世紀も続くこの大会は、まさに、酪農家の将来を考える意欲、全国の酪友の結束力を表すもの。これから酪農をけん引する大事なイベントだと思う。』と述べ、『農業全般、酪農も様々な問題を抱えているが、高齢者も、これからを担う世代も牛乳

乳製品は無くしてはならないものであり、食料安保の観点からも、この業界を国は守っていく必要があると考える。今日の発表、意欲が、必ず実現できるような、そのようなことを国は後押ししていきたいと思っている。これからの酪農業が、ますます日本全体にとって必要欠くべからざる産業であるということをしっかりと共有しながら、発展していくよう支えていきたい。』とご祝辞をいただきました。

祝辞は、農林水産省東海農政局長の秋葉一彦様、愛知県知事大村秀章様（愛知県農業水産局長今田幹夫様代読）からもいただきました。



開会式に引き続き行われた酪農経営発表の部は、各会議から選出された6名により行われ、①酪農経営の収益性、②経営の安定性・発展性、③飼養管理技術水準、④資源循環型酪農の実践、⑤食品の安全性への配慮、⑥組合・地域活動の貢献の6つの観点から慎重に審査が行われました。

発表内容は、原田淳審査委員長による審査講評にてご紹介いたします。

酪農経営発表の部 審査講評

宇都宮大学 地域デザイン科学部

コミュニケーションデザイン学科 教授

原田淳審査委員長



今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新の技術に関心を持ち実践で活用して

いることが特筆されます。その上で、昨今の厳しい経済環境にもかかわらず、収益性の確保を自給粗飼料あるいは地域資源を活用した粗飼料調達を基盤として実現していることは、注目に値します。堆肥の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいるだけでなく、酪農文化の普及に熱心に取り組む事例も見られ、今年もまた審査委員一同大いに感心いたしました。

踏み出した夢への一歩 —思い描く100年目の 牧場を目指して—

関東甲信越酪農青年女性会議
外之内 加奈氏



外之内加奈氏は、茨城県小美玉市で経営を営む法人の代表者で、酪農家としては4代目。Uターン就農であり、酪農未経験の夫と共に

に経営を引き継ぎました。

経験不足を補うため、データに基づく飼養管理を、経験重視の親世代との考え方の違いを乗り越え実現しています。それに加え、乳製品加工にとどまらず、牛乳販売、さらにはカフェの経営を農福連携によって行おうとしており、その今後に期待が持たれます。

人に感謝・牛に感謝・自然に感謝・地域に感謝

―滝沢一の牧場を目指して―

東北酪農青年女性会議

佐々木 義幸氏



佐々木義幸氏は、岩手県滝沢市の法人に従業員として採用され、4年で経営者となりました。

豊富な自給飼料生産基盤を生かし、経営継承後も「乳量の増加と牛の健康促進を両立する」という理念

を引き継ぎ、見事に実現しています。

大学との連携によりデータの活用に取り組んでおり、今後の成果に期待が持てます。

北海道で楽しくひとり放牧酪農

北海道酪農青年女性会議

蜂須賀 俊光氏



蜂須賀俊光氏は、北海道天塩町にて2度目の新規就農をし、現在は1人で酪農を営んでいます。

1人営農であっても時間的余裕を確保するための放牧や、機材・技術の導入を合理的な判断で行っており、人も牛もストレスの少ない経営を実現しています。ゆとりの時間を趣味に費やすだけでなく、若手の育成をはじめとした地域貢献にもあてているところが期待されます。

酪農で持続可能な地域社会 ―ウェルビーイングな高岡を目指して―

中部酪農青年女性会議

青沼 光氏



青沼光氏は、富山県高岡市に第三者継承で新規就農しました。市街地近隣の地で、地域の食品残渣を飼料として活用したり、耕畜連携を行うのに適した規模を実現させています。

そのような立地環境の中で、自分の代の先の将来をも見据え、地域他産業事業者との連携を構築するだけでなく、酪農教育ファームやグリーンツーリズムにも意欲的です。フランチャイズ的な新規参入の支援も含めた、今後の酪農文化の創造と発信に期待が持たれます。

生きるバイブル

―ヘルパーからの第三者継承―

西日本酪農青年女性会議

筒井 省悟氏



筒井省悟氏は、岡山県真庭市の酪農家の次男であり、その地で第三者継承を受け新規就農して4年目です。それまでは酪農ヘルパーや農作業のアルバイト等で、技術的知見や地域との関係を積み上げてきました。

観察の上でのデータ活用に基づく群を抜いた飼養管理技術により、所得率も1頭当たりの収益性も、高い経営を実現しています。

そのような実績を、地域の酪農の持続のために第三者継承の普及と後継者育成に活用することにも熱心です。地域への貢献はそれだ

けではなく、獣害対策の狩猟や伝統芸能の継承にも活躍されています。

地域と共にさらなる高みへ

九州酪農青年女性会議
宇藤 貴夫 氏



宇藤貴夫氏は、熊本県高森町にある実家の法人にUターン就農した、酪農家の2代目です。今回の発表者の中では最も大規模な経産牛210頭を、家族4人と従業員・実習生5人で飼養しています。経営規模を先代の2倍に拡大し、土草牛のバランス、さらには従業員にも気を配ったきめ細かな経営管理によって、高い経営成績を実現していることが評価されます。

全体を通して審査委員が評価したポイントは、皆さんともに、資材価格が高騰する厳しい取引条件の下でも、しっかり収益を確保している点です。その背景には、飼料の調達を、自給粗飼料の基盤づくり、あるいは食品残渣という地域資源に目を向けることによって、低コストを実現しています。しかし、それを実現するには牛と土地と労働力のバランスが必要であり、理念に基づく経営目標を前提とした計画性が必要です。

そういう意味では、今回の皆さんはいずれも、新規参入あるいはUターン就農で様々な形態の酪農経営や他産業での経験を積み重ねてきたそれまでの人生経験が、酪農経営の理念となり経営判断に反映されている様子もうかがえました。それは学ぶ姿勢があつてこそであり、その姿勢は営農にも引き継がれ、仲間との研鑽や外部機関をアドバイザーとして活用することなどにも活かされています。皆さん最新技術の導入にも積極的ですが、理念を実現する手段として適切に選択されていると見受けられました。

以上の発表を聞き、6つの審査基準全般で好成績をあげた西日本会議代表の筒井省悟氏を最優秀と決定しました。審査委員一同、6つの基準で一歩リードしていると評価をいたしました。

なお、惜しくも最優秀の選には届かなかったものの、今後の発展性に期待込めて、中部会議代表の青沼光氏に審査委員長特別賞を授与することと致しました。

あらゆる資材の価格が高騰する中にあつても、発表者の皆さんは軒並み粗飼料の地域内自給率が高く、そのことが収益性の確保に結びついている様子もうかがうことができました。安価な輸入飼料を前提とした規模拡大で低コストを追求することは難しくなり、コスト構造の再検討、つまり地域で調達する飼料の位置づけを考えることが求められています。

そのためには、地域に目を向けることが今以上に重要です。地域に合った飼料確保のための未利用資源は眠っているのですが、その利用は一筋縄ではいきません。地域の中での酪農経営の位置づけを確立するための努力が必要です。

消費に目を向けると、学校給食の対象となる児童生徒は毎年万単位で減少していく一方で、コンビニの棚ではバター、チーズや生クリームを前面に出したスイーツの存在感が増しています。つまり、乳製品の消費拡大には可能性が開けているのです。とはいえ、コンビニスイーツの影響が、町のお菓子屋さんは廃業が相次いでいるのですが、そんな中でも新規に開業するお菓子屋さん、地域の食材に目を向けて特色を出し、地域に根差そうとしています。そんな人たちと連携して酪農文化の普及、つまり酪農ファンを増やし、地域づくりへ貢献することも大切な使命ではないでしょうか。

そうした点についても、今回の報告には可能性を感じさせるところがありました。発表者の方々にとどまらず、皆さんのネットワークを、まずは地域に広げていただきたいと思います。

(審査委員長 原田淳)

酪農意見・体験発表の内容は、
次号にて紹介いたします。

●岩手中央酪農業協同組合

活動日：令和6年6月9日(日)

場 所：岩手県歯科医師会館

岩手県歯科医師会主催の第18回8020健康フェスタにて、牛乳とミルメークを配布しました。



父の日に

牛乳

今年も全国各地で
キャンペーンを実施!

を贈ろう!

後編

●宮酪青年婦人連絡協議会

活動日：令和6年7月4日(木)

場 所：秋保ヴィレッジ アグリエの森（宮城県仙台市）

来場者の方々に牛乳・ミルメーク・グッズを配布し消費拡大をPRしました。



●山形県酪農青年女性会議

活動日：令和6年6月29日(土)

場 所：山形県酪農協本所特設会場

ミルメーク900個の配布、トラクター展示、搾乳体験、バターづくり、ベンチプレスチャレンジ、乳製品販売などを通して消費者との交流を行いました。



●福島県酪農業協同組合

活動日：令和6年6月

小学校や幼稚園での食育活動、牧場での搾乳体験などを実施しました。参加者へはミルメークの配布も行い消費拡大のPRも行いました。



浜通り地域での食育活動 ▲▲



▲ 福田牧場 搾乳体験

●新潟県酪農同志会

日時：令和6年6月22日(土)

場所：道の駅あがの

サマースイーツフェスタあがの2024に参加し、スーパーで新潟県産牛乳を手にとってもらえるようなPOP制作をしてもらいました。作成して頂いた方に牛乳とミルメークを配布しました。



●群馬県酪農青年女性会議連絡協議会

活動日：令和6年6月21日(金)

場所：JR高崎駅

6月の牛乳月間に合わせ、群馬県牛乳普及協会、群馬牛乳販連と一緒に、牛乳（榛名酪連の「榛名牛乳」）1,400本を配布し、地元乳業が製造した県産牛乳をPRし、消費拡大を呼びかけました。取り組みには県内酪農家や牧場従業員、団体関係者など計19名が協力。

牛乳の栄養価の高さをはじめとした魅力を紹介する

チラシや、ミルメークも同時に配布しました。参加した酪農家からは「生産者と消費者が関わることで普段はほぼないが、こういう活動を通して、どういう人が牛乳をもらってくれるのか。また、こういう人達が牛乳を作っているということを知ってもらうことで消費者と近づく感じがする」「一人でも多くの人に牛乳を飲んでもらうことが大事。搾っている私達にとっても張り合いになるので、こういう活動は必要だと思う」とそれぞれの消費拡大への思いを聞くことが出来ました。



▲ 高崎駅東口



◀ 高崎駅西口

●栃木県酪農青年女性会議

活動日：令和6年6月1日(土)

場所：道の駅 恩川（小山市）

青木の道の駅明治の森・黒磯など

栃木県内道の駅において牛乳試飲、PRグッズの配布、牛乳飲み比べイベント等を実施



活動日：令和6年6月12日(水)

場所：栃木県庁

栃木県知事への表敬訪問を実施



●埼玉酪農業協同組合

活動日：令和6年6月15日(土)

場所：JA花園農産物直売所

来場者に対して「毎日牛乳を飲んでください」とPRしながら、牛乳普及協会より提供いただいた500本の牛乳と一緒にミルメークも配布しました。また、園児にミルメークと似顔絵用の画用紙を配りお父さんの似顔絵を描いてもらいました。牛乳と一緒にプレゼントしてくれればうれしいです。



岡山県

●おかやま酪農協女性部・青年部

活動日：令和6年6月3日(月)

場 所：岡山県庁・JR岡山駅前

県知事へ県産牛乳と乳製品の目録を贈呈し、そ

の後JR岡山駅前でチラシやミルメークを配布しながら牛乳月間のキャンペーンを展開し、消費拡大をPRしました。



●広酪メンバーズクラブ

活動日：令和6年6月6日(休)

場 所：広島県庁周辺

広島県知事・県農林水産局長、県議会議長、県教育長らを表敬訪問。その後、県庁前で消費者を対象にミルメーク等を配布し「牛乳の日」「牛乳月間」をPRしました。

広島県

●ふくおか県酪農業協同組合

活動日：令和6年6月1日(土)、16日(日)

場 所：博多駅前広場「HAKATA牧場」、道の駅くるめ、ラッテビアンコ（筑紫野市）



お父さんの似顔絵 ▲▶



▲ 牛乳で乾杯!



町長、市長へ牛乳を贈呈。消費拡大を訴えました。

活動日：令和6年6月5日(水)

場 所：筑前町役場

活動日：令和6年6月5日(水)

場 所：朝倉市役所

活動日：令和6年6月19日(水)

場 所：直方市役所



筑前町長へ牛乳贈呈 ▲▶



朝倉市長へ牛乳贈呈 ▲▶



福岡県

大分県

●大分県酪農青年女性会議

活動日：令和6年6月9日(日)

場 所：トキハわさだタウン

活動内容：模擬搾乳体験、牛乳・ツール配布



活動日：令和6年6月16日(日)

場 所：パークプレイス大分

活動内容：搾乳体験、仔牛ふれあい体験、牛乳・ツール配布



- 鹿児島県青壮年女性会議
- 鹿児島県酪本所青壮年女性部

活動日：令和6年6月～

場 所：鹿児島県庁、鹿屋市役所、中種子町役場、
南種子町役場、西之表市役所、東串良町役場



- 大隅支所青年女性会議
- 大隅支所青年女性会議

活動内容：県庁や町役場を表敬訪問。牛乳、乳製品の贈呈。



- 志布志支所青年部・女性部、曾於市酪農振興会

活動日：令和6年6月15日(土)

場 所：道の駅末吉

道の駅で牛乳、ミルメークを配布し消費拡大をPRしました。



- 鹿児島県酪本所青壮年・女性部

活動日：令和6年6月26日(水)

場 所：保育園

搾乳やバター作り、子牛とのふれあいなどを子供たちに体験してもらいました。



- 佐賀県酪農婦人部連絡協議会

活動日：令和6年6月17日(月)、25日(火)、27日(木)

場 所：保育園など

ミルメークやツール等を配布し子供たちにたくさ

ん牛乳をのんで貰えるようPRしました。また牛乳贈呈式を執り行い、今後、7月～3月までの10か月間、月2回の牛乳無料配送を実施します。



- 長崎県酪農青年女性会議、長崎県酪農業協同組合連合会

活動日：令和6年6月6日(木)

場 所：長崎県庁

長崎県知事、農林部長、畜産課長への牛乳・乳製品の贈呈を行い、県庁2階レストランでは、牛乳を使用した日替わり定食の提供を実施しました。

活動日：令和6年6月9日(日)

場 所：小浜町ジャカランダ通り

牛乳・チラシ・ミルメークを合計220セット配布し消費拡大運動を行いました。



活動日：令和6年6月19日(水)、26日(水)

場 所：雲仙市役所、佐世保市役所
市長へ牛乳・乳製品の贈呈。

活動日：令和6年6月16日(日)

場 所：みらい長崎ココウォーク

商業施設にて模擬牛を使用した搾乳体験と哺乳体験、子供向け酪農ステージ開催。

LL牛乳・ミルメーク配布、エサの展示、お楽しみ抽選会などを実施しました。

熊本県

●熊本県酪農女性部協議会

日 時：令和6年6月6日(木)

場 所：熊本県庁、熊本農政局

活動内容：県知事、農政局長への牛乳贈呈式



●熊本県酪農青壮年部協議会
●熊本県酪農業協同組合連合会

●熊本県酪農女性部協議会、
●熊本県酪農政治連盟

日 時：令和6年6月30日(日)

場 所：阿蘇ミルク牧場

活動内容：バターづくり体験、乳しぼり体験補助、乳しぼり体験参加者への酪農グッズ配布、酪農教室
(牛乳無料試飲、飼料やタペストリーによる説明)



●宮崎県酪農青年女性連絡協議会
●都城地区酪農壮青年部連絡協議会
●串間酪農協議会

●宮崎中央地域酪農協議会
●JAみやざき都城女性部酪農部会
●西諸県郡市酪農青年女性部連絡協議会

●南部酪農女性部
●JA延岡酪農振興会

宮崎県

活動日：令和6年6月～

場 所：宮崎県庁ほか

県庁や地元市役所・町役場など15か所以上を訪ね、牛乳を贈呈しながら牛乳・乳製品の消費拡大を訴えました。



宮崎県庁 ▲▶

▲ 西都市役所



▲ 都城市役所



▲ 日南市役所



▲ 小林市役所



▲ JAみやざき延岡地区本部

沖縄県

●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

活動日：令和6年6月15日(土)

場 所：イオン南風原店

活動内容：県産牛乳の試飲、搾乳体験、似顔絵作成



日本酪農 見て歩紀

No. 374

ベルちゃんたちのおうち株式会社
山口県下関市菊川町

本州最西端からの挑戦 美味しい牛乳を届けるために

地域紹介

今回ご紹介させて頂くベルちゃんたちのおうち株式会社は、本州最西端に位置しており、西には日本海が一望できる山口県下関市菊川町にあります。下関市は日本最大のフグの集積地とも知られ、古くから関門海峡に面する港湾都市として栄えました。菊川町はみどり豊かな山系に囲まれた地域で総面積の70%が山に囲まれ、盆地が中心地となっています。気温が温暖で古くから菊川の地は「小日本」と称されています。特産品としてそうめんが伝統的に作られており、学校給食向けの牛乳の生産やその他乳製品を広く生産している県内最大の乳業メーカーであるやまぐち県酪乳業株式会社の本社があります。所属する山口県酪農農業協同組合（原田康典代表理事組合長）

は、酪農家戸数25戸、出荷乳量8,401t（令和5年度末時点）となっております。



山口県下関市菊川町



▲ 左から津室佳彦さん、諫山志吹さん（中四国酪農大学校研修生）、戸山翼さん、中村剛さん、原田尚彦さん、加賀春花さん

牧場概況

ベルちゃんたちのおうち株式会社は代表取締役 河崎社長、代表取締役 中村専務、従業員4名（津室佳彦さん、原田尚彦さん、加賀春花

さん、戸山翼さん）で仕事をされています。飼料給与、哺乳、搾乳ロボットへの迫込み、除糞作業などを同時進行で行い、各自が他の作業もサポートしながら作業を進めています。そのため、毎日8～30に行うデ

イリーミーティングでの情報共有は欠かせないとのこと。

現在、搾乳頭数は195頭、乾乳頭数31頭、未経産牛5頭となりました。育成牛は山口県農林総合技術センター畜産技術部育成業務課で生後7日齢から6カ月齢まで預託を行い、6カ月齢以降は全酪連販売預託事業を活用する計画をしています。牧場はフリーストール牛舎で搾乳ロボット4基（アストロノートA5）、サイクロン、エアーカーテン、餌押しロボット、インダクション照明など最新設備を導入しています。



牧場の沿革

中村専務は山口県周南市のサラリーマン家庭に生まれました。幼少期から動物と触れ合うことが好きだったこともあり、高校卒業後は岡山県の中四国酪農大学に進学しました。平成13年に同大学を卒業後、地元である山口県に戻り、山口県酪農農業協同組合に就職しました。職員時代はヘルパー業務や人工授精師



業務、牛群検定業務など様々な業務を経験され、職員として酪農家の方々と関わっていく中で更に酪農の奥深さや魅力を感じていったとのこと。一方で山口県内酪農家の離農が相次ぎ、農家戸数が急激に減少していく時期でもありました。就職当時の平成13年には122戸あった農家戸数が平成29年には40戸程と少なくなっている状況に寂しさや危機感を感じるようになり、自分も酪農



の仲間に加わってみたいと考えるようになりました。

そのような状況下で、令和元年9月に山口県酪農農業協同組合で組合の敷地を有効活用した活性化事業として新規就農希望者の公募があり、強い思いを持って手を挙げたのとことです。

新規事業を起ち上げるにあたり、多くの難題や答えのない課題に直面し、悩み苦しむ日々もありましたが多くの関係機関の皆様方に支えられ、「ベルちゃんたちのおうち株式会社」としてスタートできました。令和5年3月に牛舎が完成、4月より酪農経営を開始しました。毎月15頭から30頭の初任牛を北海道から導入し、令和6年5月までに約240頭の牛が牧場に入りました。

飼料給与体系

給与メニューは、搾乳ロボット用PMRと山口県で生産された飼料用イネWCSを飼槽で給与し、搾乳ロボットから配合飼料を給与しています。飼料価格が高騰している中、山口県内で作付けされた稲WCSを利用できるのは飼料コストを抑える中でもありがたいことでした。稲WCS

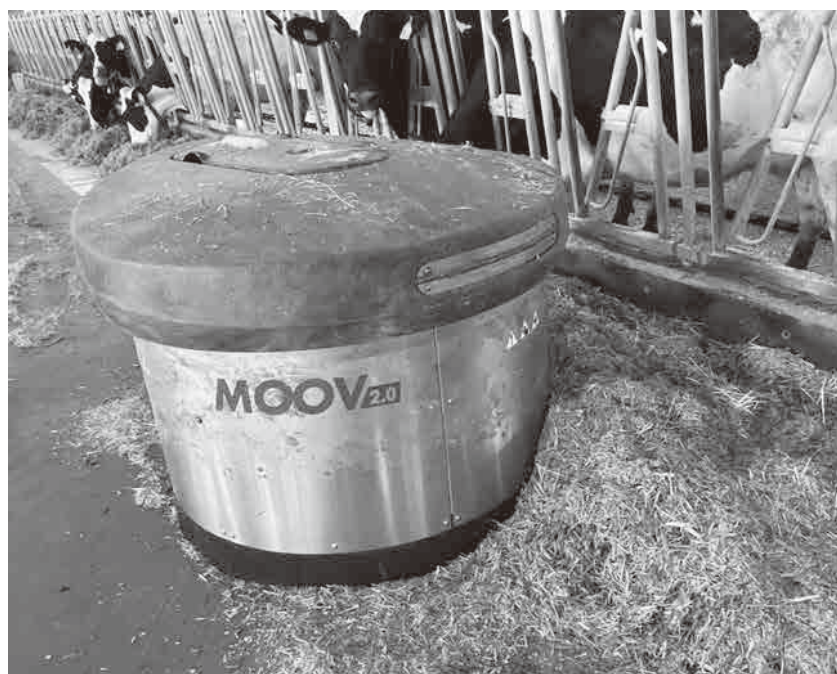


はロボットによって品質も変わってくるものもあるため、飼槽の喰いの状況にあわせて給与メニューの調整をされています。現在は牛の産次数が2産の牛群へ移行している状況なので、今の牧場にあった最適な飼養管理を求めて、日々トライ＆エラーを繰り返しているとのこと。今後の目標として搾乳牛群の乾物摂取量を年間通して1日あたり搾乳牛体重の3・5%以上を目標にしていきたいとのことでした。

とでした。

牛も人もより快適に過ごせる農場作りを目指して！

アニマルウェルフェアを大切にされているベルちゃんたちのおうち株式会社の牛舎は、カウコンフォートを意識した設計になっており、牛が自らの意思で自由に搾乳、採食、休息を選択することのできるフリーカウトラフィック仕様となっています。照



明には牛のストレスを緩和させる無電極ライトを導入し、4:00～20:00に自動点灯、自動消灯をして長日管理（16時間）のライトコントロールを実施しています。また、牛舎内はハイブリットトンネル換気となっており、気温に合わせて、牛舎側面のエアーカーテンを開閉し自然の風を取り込む事も可能となっています。

カウコンフォート意識を大切にしている一方で人間も快適に働ける環境作りも大切にされています。スタッフの就業時間は8:30～17:00の週休2日制としており、餌押しロボットなどの導入による作業の省力化など働きやすい環境作りをされています。また、役員とスタッフは年に1度健康診断を必ず受けるようにしており、山口県より健康維持管理を促進する企業を対象に認定される『やまぐち健康経営認定企業』に認定されています。

牛も人間も健康であることが重要です。共に健康に牛と人がより永続的に共存できる牧場を目指しているとのことでした。



山口大学獣医学部と連携協力

ベルちゃんたちのおうち株式会社は令和5年8月から山口大学共同獣医学部の「臨床実習協定農場」として認定され、連携協力をしています。山口大学の教示による月に2回の繁殖検診を実施しています。今後、獣医を目指す学生の貴重な学習の場となっているようです。

ゲノム検査でより良い後継牛を！

ベルちゃんたちのおうち株式会社では未経産牛の導入時、また生まれた子牛は全てゲノム検査を実施し後継牛の選抜強度を高める取り組みをされています。昨年導入の初妊牛の中には2023年の365日乳量で38,429kgを記録したベルスマート・SS・カリーウエブ・ET号の娘牛もあり、その娘牛は初産分娩から約60日で乳量40〜50kg/日出ているとのこと。今後に期待したいです。また、共進会は体型改良進度と管理状況が確認できる大切な機会ととらえており、山口県酪農業協同組合の改良同志会に所属し、県内のホル



スタイン共進会や中国B&Wショウにも積極的に参加されています。令和7年度には第16回全日本ホルスタイン共進会が開催されるので、山口県予選会に出品できるよう準備を重ねています。

食糧生産への貢献

ベルちゃんたちのおうち株式会社の経営理念のひとつに、『地域の食糧生産に寄与し、広域的に幅広く貢献可能な組織であること』とあります。この牧場に携わるすべての関係者の努力により生産された生乳を地域の皆様に栄養豊富な食品としてお届けし、おいしく消費していただくことが何よりの喜びである、とのこと。このような確固たる経営理念があることにより、牧場作業のひとつひとつが美味い牛乳をお客様に届けることに繋がっていることをスタッフ全員が共有し、牧場内の良い雰囲気とチームワークを生み出していることを改めて感じた取材でした！

あとがき

この度は大変お忙しい中、取材を引き受けてくださりありがとうございます。



いました。今回の取材を通して中村専務の新規就農に至るまでの想い、経営理念に込められた食料生産に対する想いを感じることが出来ました。今後も牛も人も共に健康に永続的に共存できる牧場を目指して誠心誠意サポートさせて頂きたいと思えます。最後になりましたがベルちゃんたちのおうち株式会社のご健勝とますますのご発展をお祈りいたします。

(M・I)

酪農部
発全国農協乳業協会
「令和6年度クレーム対応研修」の開催について

酪農部が事務受託している全国農協乳業協会(会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長)において、令和6年7月9日(火)10時～17時東京都内会議室にて、7会員9名の参加を得て「令和6年度クレーム対応研修」を開催いたしました。

令和5年度より開催している本研修会は、ANAビジネスソリューション(株)より講師を招聘し、営業職・お客様相談室等の職に就く方々に向けて、クレームがどのような顧客心理から発生するのか、その顧客心理を理解し、どのように対応することが望ましいのかを学んでいきました。今年度は初めて実開催で実施し、講師の直接の雰囲気や声の出し方等も学んでいく機会になりました。あわせて、電話によるクレーム対応についても学びました。自身の電話対応時の声を録音し、思っているほど声に抑揚が無く暗く感じた等の声が多くあがり、講師からイントネーションのアドバイスを受けた後で録音した声の印象の変化に、日常業務で気を付けなければいけないポイントを理解する良い

機会となりました。

事例研究では、「製品への異物混入に関するクレームを取り上げ、同一人物からの複数回の問い合わせで、最終的に不当なクレームになった場合にどのような対応をするか」についてロールプレイングも交えて実施していきました。相手の気持ちに寄り添いながらも、工場が原因の異物混入では無いことをどのように理解してもらうか、適切な表現等についてグループディスカッションやロールプレイングを通して考えていきました。講師からは、本当にその様なクレームが上がった際は、事前準備なしに対応を迫られる状況で、日頃から意識・練習することが重要であるとの言葉がありました。

参加者からは、頭で理解しても実際電話対応時できるか不安という声が多かったものの、初心者でもわかり易く、日頃の電話によるお客様対応で活かせる内容であったとの声が聞かれました。(Y.A)

本研修会は、(一社) Jミルク国産牛牛乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております。



▲ 講義風景



▲ グループワーク風景



▲ 謝罪時に適切な最敬礼の練習

仙 台
支所発「第28回スポーツ交流会」開催！
— 岩中酪青年女性会議 —

去る6月29日(土)に、岩中酪青年女性会議（齊藤健委員長）主催のスポーツ交流会が、岩手県盛岡市の岩手中央酪農協（小西善之代表理事組合長）特設会場にて開催されました。

当日は非常に天候にも恵まれて、約60名の組合員が参集しました。小西善之代表理事組合長は開会式で、『酪農情勢は厳しいですが、今日は怪我の無いようリフレッシュして、交流を深めましょう。大変暑い中でのスポーツ交流会なので、牛の気持ちになって各自工夫しながら暑さ対策しましょう。』と挨拶しました。

開会式、ラジオ体操の後、岩中酪管内を「二戸」「北岩手」「八幡平」「玉山」「滝沢」「県南」の6

つの地域に分けて、チーム対抗戦で競技は進められました。

「ヨーグルト早飲みリレー」や、「チビッ子レース」「トワイン結びリレー」等の参加者全員が参加できる競技が用意されました。今年は新競技として子供から大人まで楽しめる「豆つまみリレー」が実施され、多くの子供たちの参加で終始賑やかで笑顔あふれるスポーツ交流会となりました。

競技終了後の恒例の懇親会では、ビールや焼き肉が振舞われ、豪華景品がもらえるビンゴ大会、腕相撲大会も実施されました。日頃の作業の疲れを癒しつつ、互いの近況報告や酪農情報を交換し合うなど、大いに親睦を深める1日となりました。（S.R）



▲ 懇親会で行われた腕相撲大会



▲ 元気いっぱい「チビッ子レース」



▲ 「豆つまみリレー」手先が器用な人は誰だ?!

名古屋
支所発

岐阜県庁舎ライトアップ 【6月は牛乳月間】

牛乳の日である6月1日にちなんで、岐阜県は県庁舎20階の展望フロアを白色でライトアップし、広く県民に牛乳を飲んでいただくようPRをしました。

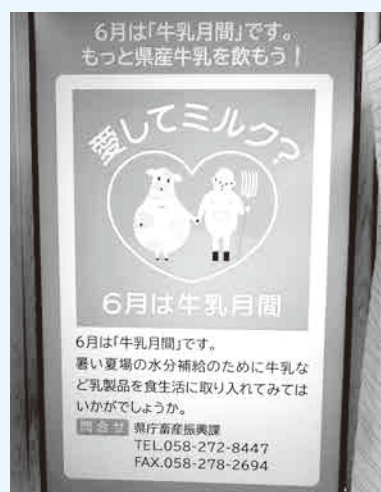
岐阜県では牛乳乳製品の消費を強く推し進めていただいています。6月4日には岐阜県酪青女による古田県知事への牛乳贈呈式が開催され、知事からも牛乳乳製品の更なる販路拡大のお話もいただきました。



▲ 岐阜県庁舎のライトアップ

また、県庁内には「愛してミルク？6月は牛乳月間」として、「暑い夏場の水分補給のために、牛乳など乳製品を食生活に取り入れてはいかがでしょうか」のデジタルサイネージ掲示をしていただきました。

今後も岐阜県にご協力をいただき、牛乳乳製品の普及を進めていきます。
(S.M)



▲ デジタルサイネージによる掲示

大阪
支所発

中国地区酪農政治連盟協議会 「令和6年度 通常総会」開催

7月4日(木)中国地区酪農政治連盟協議会はTKPガーデンシティ PREMIUM 広島駅前（広島県広島市）において中国地区酪農政治連盟協議会令和6年度通常総会が開催されました。委員長の三宅穰次氏（岡山県酪農政治連盟、おかやま酪農業協同組合 代表理事

専務）を議長として通常総会が進行され、すべての議案が可決され、無事に終了しました。

通常総会には自由民主党 衆議院議員 平口洋氏、自由民主党 衆議院議員 石橋林太郎氏、日本酪

2名の代理出席がありました。中国地区酪農政治連盟協議会からは三宅穰次委員長始め21名の出席でした。通常総会に続き、農林水産省畜産局牛乳乳製品課生乳班課長補佐 平田裕祐氏を講師として「酪農政策と現状と課題」の研修会を開催されました。質疑応答では昨今の酪農情勢の課題について各県から意見や要望がありました。中国地区酪農政治連盟協議会は中国地区の健全なる発展に寄与することを目的とし活動して参ります。

(A.O)



▲ 三宅穰次委員長

農政治連盟 幹事長 坂本保氏、中国生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務 植野光雄氏と国会議員の秘書



▲ 農林水産省 畜産局 牛乳乳製品課 生乳班 課長補佐 平田裕祐氏

入賞作品紹介

酪農家の皆様より応募いただいた46点の中から、第51回全国酪農青年女性酪農発表大会の参加者の皆様による投票で入賞作品を6点選出させていただきましたのでご紹介します。

たくさんのご応募、ご協力ありがとうございました。

特選



「おうちへ帰ろう」

東北酪農青年女性会議

茂木 幹司氏

入賞



「どおっ?かわいい? 私も写真撮って!」

西日本酪農青年女性会議
山田 咲氏

「NOTO未来へ」

中部酪農青年女性会議
西出 穠氏

「うーさん!いまから美味しい餌やるぞ〜!」

九州酪農青年女性会議
宮本 武士氏

「イケメンの搾乳風景」

九州酪農青年女性会議
松谷 茜氏

「親子愛」

東北酪農青年女性会議
椎谷 和市氏



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和6年4月～7月

5/8

正副委員長会議（於：全酪連役員会議室）

6/3

坂本哲志農林水産大臣 表敬訪問（於：農林水産省大臣室）

5/22
↓
5/23

北海道酪農協会 要請活動に同行（於：農林水産省・衆議員・参議院議員会館）

6/19

自由民主党酪政会総会（於：自由民主党本部）

柴田副委員長は、依然として厳しい各地の酪農情勢を伝えるとともに、
令和7年度酪農関連対策・予算確保にかかる要請を行った



▲ 森会長挨拶



▲ 柴田副委員長 要請

三役会議・中央委員会（於：自由民主党本部）

中央委員会において、農林水産省畜産局各課の担当官との意見交換を行った

鈴木憲和農林水産副大臣 表敬訪問（於：農林水産省副大臣室）

（日本酪政連・酪政連東北ブロック協議会）

鈴木憲和農林水産副大臣 表敬訪問（於：農林水産省副大臣室）

7/24

中央常任委員会（於：全酪連本所役員会議室）

委員長・副委員長の互選が行われ、以下の通り選任された

委員長 柴田 輝男（新任）

副委員長 宮本貞治郎

同 清水 清人

同 三宅 穰次

同 臼井 勉（新任）

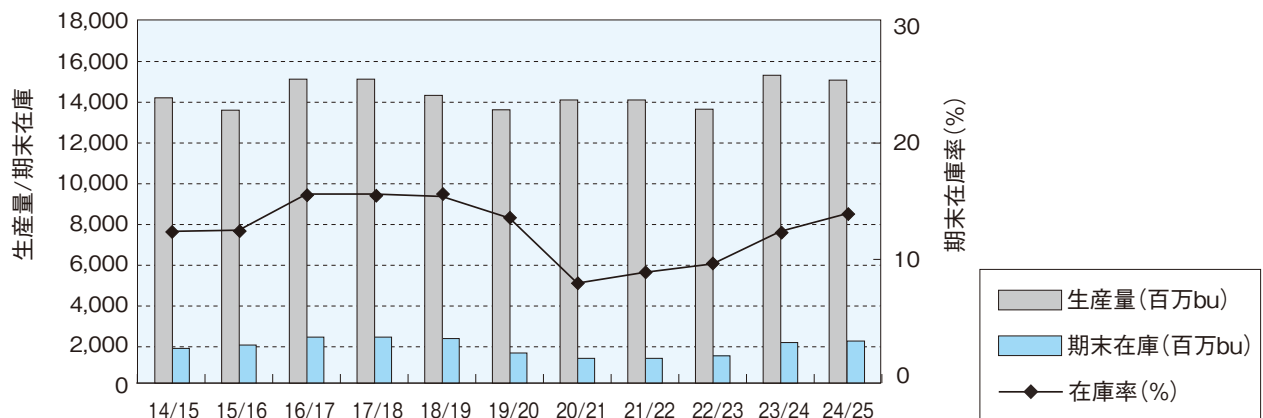
会計責任者 宮本貞治郎

幹事長 坂本 保

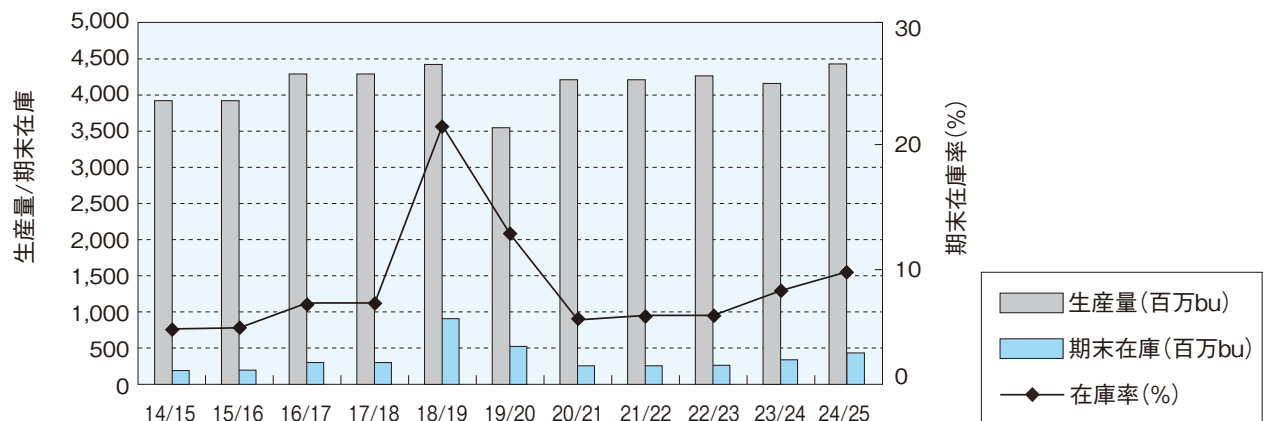


7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		23/24年産	24/25年産
	作付面積(百万エーカー)	94.6	91.5
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.3	181.0
	生 産 量(ブッシェル)	153億4,200万	151億万
	需 要 量(ブッシェル)	148億5,500万	149億500万
	期末在庫(ブッシェル)	18億7,700万	20億9,700万
	在 庫 率	12.64%	14.07%
トウモロコシ 相場動向	天候相場の中、コーンベルトの降雨予報や、USDAが発表した四半期在庫と作付面積が市場予想を上回ったこと、作柄も良好が見込まれること、中国の需要が減退していることから、シカゴ定期は軟調に推移している。引続き米国の天候や中国の動向には注意が必要。		
大豆粕相場動向	7月の需給報告も特段変化はなく、米国大豆の生育状況も順調なことからシカゴ相場は弱含みに推移している。南米の生産量も豊作見通しなこともあり、短期的には上値が重い展開が予想される。		
糟糖類	【一般フスマ】 主製品である小麦粉販売数量はインバウンド需要の影響で前年比100%超えとなっているが、コロナ前の水準まではまだまだ回復していない状況となっている。		
	【グルテンフィード】 国産は現在稼働期であるが、主製品の売れ行きや、フィードの歩留まりの悪さから供給が逼迫しており、不足分を中国産などで補っている。		
海上運賃	引続き南米や豪州からの中国向け鉄鉱石、石炭等の貨物需要が高水準にあることから、海運市況は底堅く推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



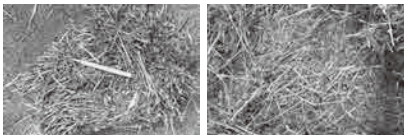
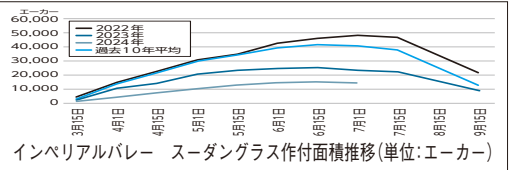
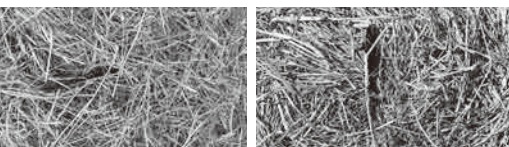
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和6年7月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールの乱れが続いており、遅延が発生しています。スエズ運河近くの紅海での武装組織フーシ派による商業船へ向けた攻撃や、パナマ運河の渇水による通航隻数の制限といった世界の物流を担う地域での混乱も続いており、世界的な物流状況の回復までは時間が掛かる見込みです。世界の物流悪化は欧州～米国間のリードタイム（輸送期間）を長引かせ、主要港やアジアの乗継地での慢性的なコンテナ不足や遅延に影響を与える事態となっています。また、11月の米国大統領選挙前の需要増加を受け、シンガポールを中心とした東南アジアの港でも混雑が見られ、遅延が発生しています。カナダでは鉄道労働組合(TCRC : Teamsters Canada Rail Conference)とカナディアン・ナショナル鉄道(CN)および、カナダ太平洋カンザスシティ・サザン鉄道(CPKC)の労使交渉が難航しておりストライキが懸念されています。交渉は現在も続いているため、進展がない状況が続いているため、今後の動向には注視が必要です。
ビートパルプ	【米国产】 24-25年産のビートパルプの播種作業は終了しています。各製糖工場では新穀の製造に向けて機械のメンテナンスを行っており、8月中旬頃から製造が開始される見込みです。主産地であるミネソタ州やアイオワ州では6月中旬に豪雨による洪水が発生しており、生産量の減少が懸念されています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、24年産1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫作業が順次開始されています。24年産の1番刈は、収穫期に降雨の被害もありましたが、生育に適した春先の冷涼な気候や好天に恵まれたこともあり、品質は色目が良好で成分が高い上級品が多く収穫されています。一部の生産農家は1番刈終了後にトウモロコシや豆類に転作しており、産地での24年産生産量は昨年比で減少すると予想されています。米国内の酪農家からの引き合いは弱く、輸出業者も産地動向に注視しながら必要な分のみ買付けを行っているため、相場は十分に形成されていません。  ▲ 24年産1番刈アルファルファ 6月下旬コロンビアベースンにて撮影 (左:上級品 右:中級品) 【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは、昨年よりも1週間程度早い6月上旬から24年産1番刈の収穫が始まりました。現在、収穫作業は終盤を迎えています。収穫作業中に降雨被害を受けた圃場もありますが、冷涼な気候の中、生育したことで成分が良く見た目が綺麗な良品も発生しています。同州中部クリスマスバレーでも冷涼な気候の中で生育が進み、1番刈の収穫作業は7月上旬で終了する見通しです。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在4番刈の収穫が終了し、圃場によっては5番刈の収穫が開始されています。産地では夏季に入り連日40℃を超える気温のため、成分値が減少し茎が細く、過乾燥気味なサマーヘイ中心の発生となり上級品は限定的となっています。米国内の酪農家は産地に十分量ある輸出向けには適さない低価格帯の牧草を使用していることから引き合いも落ち着いており、輸出向けについても積極的な買付は行われていません。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点でのアルファルファの作付面積は144,432エーカー（前年同期は151,915エーカー）と前年同期比95%と減少しています。
チモシー	【米国产】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバークでは、1番刈の収穫作業が終盤を迎えています。コロンビアベースンでは冷涼な気候の中、生育が進んだこともあり、大半が上級品の発生で中～低級品の発生は限定的となっています。アイダホ州では良好な気候の中、順調な生育が続いており6月下旬より収穫作業が開始されています。収量は例年並みの見通しです。産地相場はまだ具体的には見えていませんが、米国内の馬糧向け需要も堅調に推移していることや、一部の輸出業者が保有していた繰り越し在庫の出荷目途もつき、24年産は在庫が薄い状況で開始となるため、積極的に買付競争が行われており価格の高騰が懸念されています。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では昨年、干ばつの影響を受けましたが、今年は降雨に恵まれており土壌状態は良好です。1番刈の収穫作業は7月中旬頃から開始される見込みです。同州中部のクレモナ地区では、春先の降雨で土壌状態は良好でしたが、6月に入り乾燥が続く、気温が低かったこともあり、生育状況は例年と比較して1週間程度遅れています。今後、収穫までに適度な降雨がない場合は品質の低下や、収量の減少が懸念されています。1番刈の収穫作業は7月下旬から開始される見込みです。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6月中旬から早い圃場で収穫作業が本格化しています。1番刈の収穫作業終了後、2番刈に進むかどうかを考えている生産者も多く、7月以降はモンスーン（季節風）シーズンに入り、産地の天候も変化する可能性があるため、2番刈で更なる生産量の減少が懸念されています。23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今後の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。灌漑局の発表によると、7月1日時点の作付面積は14,577エーカー（前年同期は23,540エーカー）となっており、前年同期比62%と、低水準での推移が続いています。  インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移(単位:エーカー)
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。24年産は生産農家にとって利益が出るような相場ではないため、3番刈で生産を終了する圃場が多くなる見通しです。なお、ファロープログラム(休耕地政策)について、政府当局内での協議は最終局面を迎えています。韓国向けでオレゴン産ストローの在庫が限定的ということや他草種と比較しても安価な位置づけということもあり、代替としての需要が増加しています。灌漑局の発表によると、6月15日時点の作付面積は21,241エーカー（前年同期22,190エーカー）となっており、前年同期比96%とやや減少しています。  ▲ 24年産クレイグラス1番刈 6月下旬撮影
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、バミューダヘイ2番刈の収穫作業が終盤を迎え、早い圃場では3番刈の収穫が開始されています。1～2番刈で収穫された殆どは馬糧向け上級品として出荷されています。一方で種子の収穫も開始しており、終了次第、副産物のストローの収穫も始まる見込みです。灌漑局の発表によると、6月15日時点の作付面積は67,626エーカー（前年同期：65,066エーカー）、前年比104%と、新規宅地の芝向け需要の増加が一因となっています。
オーツヘイ・ウィートストロー	【豪州産】 24年産のオーツヘイの播種作業は概ね終了しており、生育状況は冷涼な気候により遅れています。6月は各地域での降雨状況が異なり、東豪州では例年並みの降水量、西豪州と南豪州の一部では例年の半分程度の降水量となりました。今後の降雨量次第では収量へ影響を及ぼす可能性があることから注視が必要です。豪州海運情勢については紅海問題やアジア地域の積替港に残留している大量のコンテナの影響により、スケジュールの乱れが続いています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏 名
■令和6年8月1日付異動発令 総務部長 兼 総務・広報課長 総務部 副部長 兼 組織対策課長 兼 酪農を支える人材育成課長 購買生産指導部長 兼 分析センター長 購買生産指導部 飼料製造課長代理 購買生産指導部 畜産課長 札幌支所長 兼 酪農課長 仙台支所長 兼 三戸食肉事業所長 仙台支所 北東北事務所長 東京支所長 名古屋支所長 兼 酪農課長 大阪支所長 大阪支所 購買畜産課長 兼 業務課長 兼 近畿事務所長 福岡支所長 総務部付外向 (株)ゼン・トレーディング 営業部長	大阪支所長 兼 指導組織課長 名古屋支所長 兼 酪農課長 福岡支所長 兼 畜産課長 仙台支所 北東北事務所長 購買生産指導部 飼料製造課長代理 総務部付外向 (株)ゼン・トレーディング 東京支所長 東京支所 栃木事務所長 札幌支所長 兼 酪農課長 大阪支所 次長 兼 購買畜産課長 兼 業務課長 兼 近畿事務所長 仙台支所長 兼 三戸食肉事業所長 大阪支所 中四国事務所長 総務部 副部長 兼 組織対策課長 兼 酪農を支える人材育成課長 購買生産指導部 購買企画課長	津田 知 亮 炬口 浩 司 鈴木 有希津 栗田 淳一郎 須藤 大 吾 伊 尾 陽 渡 邊 和 典 武田 和 之 矢口 正 史 下 井 泰 隆 蒲 田 泰 介 瀧 本 慎 也 坂本 敬太郎 吉 永 順 一
■令和6年8月1日付兼務発令 購買生産指導部 酪農生産指導室長 兼 購買企画課長 札幌支所 次長 兼 帯広事務所長 東京支所 北関東事務所長 兼 栃木事務所長	購買生産指導部 酪農生産指導室長 札幌支所 次長 兼 畜産課長 東京支所 北関東事務所長	東 健 太 郎 佐々木 俊介 加 藤 剛 士
■令和6年8月1日付兼務解除発令 企画管理部長 兼 総合企画室長	企画管理部長 兼 総合企画室長 兼 総務部長 兼 総務・広報課長	丹 戸 靖
■令和6年8月1日付昇進発令 企画管理部 情報システム課長代理 購買生産指導部 副部長 兼 購買推進課長 購買生産指導部 畜産課長代理 酪農部 酪農企画課長代理 札幌支所 畜産課長 名古屋支所 次長 兼 購買畜産課長 大阪支所 指導組織課長 大阪支所 中四国事務所長 福岡支所 総務課長代理 福岡支所 畜産課長 北福岡工場 品質管理課長代理	企画管理部 情報システム課 購買生産指導部 購買推進課長 購買生産指導部 畜産課 酪農部 酪農企画課 札幌支所 畜産課長代理 名古屋支所 購買畜産課長 大阪支所 指導組織課長代理 大阪支所 中四国事務所長代理 福岡支所 総務課 福岡支所 畜産課長代理 北福岡工場 品質管理課	小 林 正 樹 澤 口 新 哉 埋 橋 良 輔 朴 眩 鳳 菅 谷 洋 平 下 田 宏 二 大 竹 綾 子 阿 部 真之介 羽 地 紀 幸 北 川 太 田 中 誠

乳牛産地情報

令和6年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で94.7%、累計で97.2%、苫小牧管内月計で93.9%、累計で96.7%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分産が中心となることから、需要は回復してくると予想されますが、価格は横這いに推移するものと見込まれます。腹別の資源状況につきましては、雌雄選別腹・F1腹ともに資源は豊富にある状況です。出回り頭数は少ない管内ではありますが、高能力・高成績牛を多く取り扱える地域ですので、相場が落ち着いているこの時期での導入をお勧めいたします。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	30~40	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.2%、累計で99.8%、中標津管内月計で98.1%、累計で100.1%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬の分産中心となります。初妊牛に関しては、暑さが落ち着く秋分産中心となることから、需要は回復傾向にあると思われますが、資源も潤沢にあることから、相場は横這いに推移するものと見込まれます。腹別の資源状況につきましては、雌雄選別腹・F1腹ともに資源は豊富にある状況ですが、需要においては、F1腹の引き合いが強く、雌雄選別腹と牛受精卵移植腹の引き合いは弱い状況となっております。暑熱による輸送リスクを警戒し、導入需要が少ない時期でありますので、資源は確保しやすいと思われます。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	30~40	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	32~42	→	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で98.0%、累計で99.5%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分産が中心となります。初妊牛に関しまして、秋分産中心の出回りとなります、需要は徐々に回復していくと見込まれますが、資源頭数も潤沢にあることから取引価格については、横這いで推移するものと見込まれます。経産牛に関しましては、即戦力となる牛については、道内からの引き合いが見込まれますが、相場については横這いで推移すると見込まれます。育成牛に関しましては、春生まれが中心となるため需要は継続的にあるものと見込まれることから、相場につきましては横這いで推移すると見込まれます。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	30~40	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.4%、累計で97.9%、北見管内月計で98.9%、累計で100.9%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分産が中心となります。秋口に向けた分産中心となります。北海道でも猛暑日になる日もあり、非常に暑い日が続いていることで分産事故も多く出てきております。そのためリスク回避のため、生体取引の動きも鈍くなっており、前月と同様の価格帯で取引されるものと見込まれます。腹別の資源については雌雄選別腹、F1腹ともに資源は潤沢な状況です。経産牛については、前月同様に道内即戦力を求める動きがあり、需要が高まっていますが、夏分産の経産牛は動きが鈍く横這いに推移すると見込まれます。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	30~40	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~40	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は97.5%、累計で99.4%の実績となっております。各地域とも、1番草の収穫がほぼ終了し、地域差はありますが、天候に恵まれた地域もあり概ね良質な牧草が期待されています。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬の分産が中心となり、秋分産による需要回復が見込まれるものの、資源は潤沢にあることから、相場は引き続き、横這いと予想されます。道内全体の資源は雌雄選別腹、F1腹ともに豊富な状況であるため、十分頭数を確保できる状況にあります。昨年と同様に猛暑の影響による事故を警戒し、8月での荷動きは鈍いものと予想されますが、益明け以降、例年では都府県への導入も活発になる季節となります。導入計画がございましたら、弊社担当者へお早めのご注文をお待ちしております。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	30~40	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第14回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただき特選に選ばれた作品「おうちへ帰ろう」(宮城県 茂木幹司氏撮影)です。

令和6年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.707

●編集・発行人 津田知亮

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 大雨による大きな被害が各地で発生しており、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興により、普段の生活が取り戻せますよう、お祈り申し上げます。
- 毎日暑い日が続き、熱中症に気を付けながらも、パリオリンピックも始まり寝不足も気になるところです。皆様、体調には十分気を付けながらこの夏をのりきりしましょう。
- 紙面でご紹介いたしましたが、7月18,19日、名古屋市内にて第51回酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国より450名の酪農家、関係者にご参加いただき盛大に開催することができました。ありがとうございました。来年もまた、皆様と元氣にお会いできることを楽しみにしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



乳牛の親子

会津若松ザベリオ学園小学校 4年（東北） 藤谷桃音

今月の入賞作品は…

会津若松ザベリオ学園小学校 4年（東北）の藤谷桃音さんの作品です。

牧草地でくつろぐ牛さん親子を水彩絵具を使った繊細なタッチで表現しています。近くで見ると瞳の周りの細いまつげまで丁寧に描いています。桃音さんは絵を描くことが本当に好きなのですね。形や構図、色彩感覚、描写、そしてテーマ性に至るまで全てにおいて完成度が高い見応えのある傑作です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議